

地図からわかること 交易地図から広がる意味

沖縄県公立中学校教諭

沖縄県は、日本国の南西側に位置し気候もさることながら風土・風習等、独自の文化を形成してきた。この文化を創造・発展させたのは、14世紀～16世紀にかけてその地理的位置と諸地域の諸情勢の流れに乗り、大いなる発展を遂げた中継ぎ貿易で、文化発展の一翼を担った。『中学社会科地図 初訂版』p.26の「琉球交易船（進貢船）」を題材に社会科の各分野（地理・歴史・公民分野）の学習において、沖縄県の発展の要因を考えてみよう。

まず、**地理的分野**からの学習の発展は、p.26の地図（交易路）を見ると、琉球が朝鮮・日本・中国と中国福州以南の東南アジアを結ぶネットワークの結節点であったことが読み取れる。また、その補助資料として下記の（1）～（2）が提示できれば、さらなる地理的分野の深い学習が期待できる。

（1）「万国津梁の鐘」の銘文とポルトガルの資料（トメ・ピレス「東方諸国記」生田滋・加藤栄一・長岡新治郎訳『大航海時代叢書』V）の「レキオ（琉球）人」の箇所を提示することにより沖縄県（琉球）の地理的条件（位置）が理解できる。

（2）申叔舟（李氏朝鮮）。1471年成立16世紀初め刊『東海諸国紀』所収（国立公文書館所蔵）に描かれる琉球国の大きさは、当時李氏朝鮮との貿易重要国であることを視覚によって認識されるものになっている。

歴史的分野からの学習発展を考える場合、p.26地図中の琉球交易船装飾や、帝国書院『中学生の歴史 初訂版』p.108①那覇の港の



「中学校社会科地図 初訂版」p.26

にぎわい
 <『那覇港図』(国営沖縄記念公園事務所蔵)>に着目させ、船体の側面図柄の意味
 (四角い

図柄は砲門を表し、交易船が大砲をたくさん積み込んだ軍艦に見せかけたものである)を理解させることにより、当時の海上治安(倭寇または海賊)が交易上の驚異になっていることを認識できるであろう。

公民的分野からの発展を考える場合、p.26の地図およびp.25の「日本との結びつき」の沖縄の位置を確認後、現在、沖縄県の問題として取り上げられる基地の問題・偏りについて考えることができる。その際、補助資料として、下記の資料を提示すればさらなる発展が期待される。

○帝国書院『中学生の歴史 初訂版』p.229⑤ 沖縄とアメリカ軍基地等の沖縄本島にしめる基地の割合の史料を提示。

「pacific of keystone」(太平洋の要石)の語句を掲示、日本語の訳を添えることにより、公民的資質の向上につながる興味関心の分野を広げることができる。